

平成2年に多自然型川づくりが始まって以来、治水機能と環境機能を調和させた川づくりが定着しつつある一方で、多自然型川づくりの中には、画一的な標準横断形で計画したり、河床や水際を単調にするなど課題の残る川づくりもまだまだ多く見られます(写真)。そのため、国土交通省河川局は、これまでの多自然型川づくりの現状を検証し、新たな知見を踏まえた今後の方向性について検討を行うため、平成17年9月に「多自然型川づくり」レビュー委員会を設置し、平成18年5月に委員会から提言「多自然川づくりへの展開」をいただきました。

提言では、多自然型川づくりの中には課題の残るものもあるとされ、今後はモデル事業のような誤解を与える「型」から脱却し、普遍的な川づくりの姿として「多自然川づくり」へと展開することが必要であるとされました。また、その推進のためには課題の残る川づくりを解消するとともに、川づくり全体の水準を向上するため、以下の3つの方向性を目指すことを共通の認識

として、実践することが必要とされました。

- (1) 個別箇所の多自然から河川全体の自然の営みを視野に入れた多自然へ
 - (2) 地域の暮らしや歴史・文化と結びついた川づくりへ
 - (3) 河川管理全般を視野に入れた多自然川づくりへ
- 河川局では、この提言を踏まえ、多自然川づくりの新たな展開を図るべく平成18年10月に「多自然川づくり基本指針」を策定しました。今後は、基本指針を踏まえ、多自然川づくりのより一層の推進を図っていきます。

原田 昌直

前 国土交通省河川局河川環境課 課長補佐

魚巢ブロックをとりつけたが、全面に州がついてしまって、魚巢ブロックの機能がなくなってしまった。



Information & news

ARRCと読者を結ぶ広場

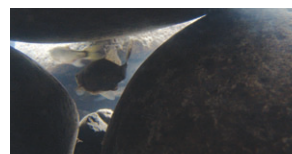
研究報告会2006を開催しました

自然共生研究センターの研究報告会が2006年12月14日、15日に名古屋と東京で開催されました。今回の報告会では、「報告」と「質疑応答」を通して来場者から客観的に評価を受け、研究の方向性を再考する良い機会となりました。



公開実験を開催しました

水際に形成される間隙と魚類の生息に関する公開実験が、国土交通省木曾川上流河川事務所水辺共生体験館の実験水路を用いて開催されました。実験では大礫と巨礫で石積み水際を再現し、遊泳魚と底生魚の間隙の利用状況、間隙の大きさ、流速等の関係を観察して頂きました。



独立行政法人 土木研究所
自然共生研究センター
AQUA RESTORATION RESEARCH CENTER
Incorporated Administrative Agency Public Works Research Institute

〒501-6021 岐阜県各務原市川島笠田町官有地無番地
Tel 0586-89-6036 Fax 0586-89-6039

視察・見学のご案内

自然共生研究センターは、どなたでも自由に視察・見学することが出来ます。皆さん、ぜひお越しください。

視察・見学をご希望の場合 所定の申込書で受付致しますので、下記のいずれかの方法でお申し込みください。



電話ご利用の場合

その折、申込の方法についてご案内します。

Tel 0586-89-6036



インターネットご利用の場合

ホームページの申込書をご利用ください。

URL <http://www.pwri.go.jp/team/kyousei/jpn/index.htm>



メールご利用の場合

申込書を添付・送信いたします。

E-mail: kyousei4@pwri.go.jp

技術相談 受付中

自然共生研究センターでは、河川環境の保全・復元に関する技術相談を随時受け付けています。

技術相談可能なカテゴリ一例は以下の通りです。

多自然型川づくりに関する技術相談

自然再生事業に関する技術相談

正常流量に関する技術相談

ダム下流域の生態系評価に関する技術相談

机上での相談だけでなく現場での対応も可能な場合がありますので、ご相談下さい。

自然共生研究センターの英訳は、Aqua Restoration Research Center 略してARRC。この略称の発音が期せずして Noah's ark(ノアの方舟)と同じになった。

交通のご案内

自動車をご利用の場合

東海北陸自動車道岐阜各務原ICより10分
(研究棟へは河川環境楽園・西口駐車場が便利です)
川島PAより徒歩で来ることが出来ます。

電車をご利用の場合

名鉄名古屋駅または名鉄岐阜駅から笠松駅へ
笠松駅からタクシーで10分
(笠松駅からの交通はタクシーのみです)

